

# るんびに

第八十九号

楊林山 正光寺

波多正文

尼崎市東大物町1-3-7  
(06) 6481-3253

お盆ほど、私たちの生活にとけこんだ仏  
教行事はありません。毎年、お盆には、ふ  
るさと向かう人たちが、陸も、海も、空  
もいっぱいです。  
しかし、これほど日本の社会に、私たち  
の生活にとけこんだ仏教行事ですが、お盆  
そのもののもつ意味は、あまり考えられて  
いないようです。

お盆は、正しく盂蘭盆会（うらぼんえ）とい  
います。盂蘭とは、倒懸すなわち、倒（さか）  
きに懸（つる）し上げられることです。これ  
は、私たちのあり方と、そのあり方によつ  
て起る苦しみの様子をあらわしています。  
倒さになっていく私たちのあり方をひろい  
あげてみますと、  
一、大切なものを粗末にし、どちらでも  
いいものを大切にしている。  
二、急がねばならないことをあとにして、  
急がなくてもいいことを急いでいる。  
三、覚えていなければならぬことをす  
ぐ忘れ、忘れてしまえばいいことは、  
いつまでも覚えていく。  
四、聞かなければならぬことを聞かず  
に、聞かなくてもいいことを聞いて  
いる。  
五、しなければならぬことはせずに、  
してはいけないうちにげんでいる。  
等と、きりがありませぬ。具体的には、どう  
こういわなくても、それぞれ、思いあたる  
ことがあるのでは、このように逆立ちし  
私たちが苦しむは、このように逆立ちし

「聞く」  
たあり方から起ります。逆立ちしていな  
がら私たちが自分ごとにも立っていな  
思っていますから、いつまでたっても、苦  
しみから離れることができません。  
ただ忙し、忙しいの生活だけでは、い  
つまでたつても自分が逆立ちしていること  
には気づきません。逆立ちとは不自然な姿で  
すから、正しく立っている人とくらべれば、  
数倍つかれます。それで、自然に不平不満  
も、正しく立っている人以上にたまりませ  
暑い時に逆立ちで走りまわれば、よけい  
イライラするばかりです。そこで、二・三  
日ゆっくりと自分のあり方を点検してみ  
はというのが盂蘭、すなわち「逆立ちして  
いませぬか。」といわれる意味です。  
では、逆立ちしていることにさえ気づか  
ない私たちが、どうすれば自らを点検する  
ことが出来るのでしょうか。それは正しい  
み教えに遇う以外にありません。正しい  
教えに照らされて、はじめて自分の逆立ち  
の姿に気づくのです。

盆とは、器のことです。それは、苦しむも  
のをすくいあげる器ということ、救いを  
意味します。会は、集まりということ、救  
です。から、盂蘭盆会とは、逆立ちして苦  
しんでいるものが、正しいみ教えにあつて  
救われる集いという事になります。それ  
は、決して死者のための行事ではなく、逆  
立ちして苦しんでいる生者のための行事な  
のです。  
「どんな事があつても、必ず救う」と呼び  
つづけてくださる阿弥陀如来に、逆立ちし  
浄土にかえられた先祖をしのび、逆立ちし  
ていながら、逆立ちしてのことにも気づ  
かず、正しく日々の生活におわっている私  
が、正しいみ教えに遇い、お救いにあづか  
る集いが盂蘭盆会なのです。  
今年も大切に「お盆」を迎えたいもので  
す。  
（「お盆に」藤田 徹文著）



古代ギリシャの言葉で次の様な事を聞いた  
事があります。  
「人間の口は二つの機能を持っているが、  
一つしかつかっていない、然るに耳は一つの  
機能しか持たないにもかかわらず、二つも  
ついている。という事が人間に大事なことを  
を教えている。』という言葉です。  
確かに人間の口は、他の動物と同じように、  
『食べる』というはたらきをもっています。  
と同時に動物と違って『話す』というはた  
らきも持っています。にもかかわらず口は  
一つでありませぬ。  
しかし、耳は『聞く』というはたらき一つ  
であるのに二つも付いている事が、私たち  
に『話す倍だけ聞け』とこの言葉は教えて  
くれている様に思えます。  
私は布教使として様々なお寺に出向させて  
頂き、布教をさせて頂いています。自坊  
での法座で聞く立場になると、参拝者が何  
人來られているのだろうか、準備が行き届  
いているか、など他のことばかり気になり、  
全然お話を聞いていません。  
話すには知識や経験があれば何とかなる  
ものの、聞くためにはそれらは全く役に立  
ちませぬ。自分の事として受け入れる謙虚  
な気持ちが大切な事です。聞く耳を失って  
傲慢になった私に仏法はあらためて、初事、  
私事として謙虚さをおしえてくださるので  
す。

## ◆お盆法要

八月十六日(日) 午後二時〜四時

ご講師 藤田 徹文師

## ◆秋季彼岸法要

九月十三日(日) 午後二時〜四時

ご講師 貴島 信行師

## ◆正信偈を学ぶ会

毎月第三土曜日 午後二時〜三時三十分